

令和元年度 第1回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 平成31年4月18日（木）午後7時00分～9時00分 昭和会館
出席者 谷部議長、中村副議長、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員、松本委員
欠席者 佐伯委員、齋藤委員、二ノ宮リム委員、吉村委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

- 資料1-1 「ボランティア」ってなに？
- 資料1-2 持続可能な未来を創るボランティアのためのガイド
- 資料2 令和元年度「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」について
- 資料3 春の文化財行事について
- 資料4 青少年とともにあゆむ地区委員会 スポーツ大会日程

- ・昭島市月間行事予定表 4月
- ・「地域と学校の協働」を推進する方策について―建議―
- ・あきしま公民館だより No.191
- ・平成31年度版 あきしま学びガイド
- ・Enjoy!スポーツ!第29号
- ・東京の文化財第126号
- ・教育福祉総合センター愛称募集要項

2 議 題

(1) 青少年問題協議会委員の推薦について

- ・濱田委員を選出

(2) 第30期テーマ設定に向けて(資料1-1、1-2)

議 長 前回、ボランティアということについて議論したが、今回はまず資料1-1、1-2をご覧いただき、意見交換をしたい。

委 員 学校でボランティアをやるということを考えたとき、全員がやるのではなく、やらないという選択もあっていいはず。(P.12) ボランティアと奉仕活動は違うということがわかる。

委 員 ボランティアをやる人はいいい人だというイメージがある中で、ボランティア活動をしたくても、様々な事情でできない人もいますので、そこで差別が生じてはよくないと思う。

委 員 学校で行うものは「地域貢献、奉仕活動」の意味合いが強い。ただ、そこで楽しみを得た子どもは、何度でも参加する傾向がある。地域貢献がボランティア精神を育む役割を担っていると言ってもいいのではないか。

- 委員 参加することで楽しいというのはいいことである。
- 委員 奉仕活動だとしても、その活動へのきっかけがないと、活動を知る機会も失われてしまうので、やや強制的な奉仕活動はきっかけづくりの役目も担っている。
- 委員 それでもやりたくないという気持ちが排除されているのはどうなのだろうか。
- 委員 社会活動とボランティアがしっくり結びつかない。組織ができた当初は自主的だったかもしれないが、しだいに強制的になっていくような気がして、ボランティアとは個人が自発的に決めてやるもので、組織だった活動となっていくとボランティアとは違うのではないかと感じる。被災地での活動は、個人であれ仲間内であれ、それはボランティアだと思うが。
- 委員 PTA の役員は奉仕活動に近いということになる。私は奉仕活動の役員を決めるボランティアに行ってきた。というのは、最終的に役員決めがくじびきになり、くじを引く係になったということなのだが、その時の気持ちとしては「ボランティア」をしているということだった。
- 議長 第 3 回として予定している「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」では、最初に講師の先生からボランティアについて触れてもらってもよいかもしれない。
- 委員 これまで、ボランティアという言葉にいろいろな意味を含めてしまっていたと思う。整理がつかないまま使っていると、一口にボランティアと言ってもいろいろな形態があることもわかる。
- 議長 多くの方が「ボランティア」という言葉の意味を混在させたまま使っていると思う。自分たちの活動を見直すうえでも、言葉を整理することもしていきたい。
- 事務局 例えば、あきしま会議における参加者の活動が奉仕活動的な PTA や自治会活動だとしても、支援する側として、それを楽しく自らがやりたいと思える活動にしていくにはどうすればよいのかを共に考える機会になるような寄り添い方をしていただきたい。
- 議長 前回の参加者の中に、自治会活動をされている方がいて、これまでの慣習に、疑問を感じているようだった。その人はグループの中で他の活動の話聞くことで新たな視点を得ていたと感じた。
- 委員 自治会館を建設するにあたって、地域の企業や商店などさまざまな方々の協力があつたことを踏まえ、そういった方々にも使ってもらえる自治会館運営をめざした取り組み方の事例が参考になったようだ。一人で立ち向かうのではなく、仲間を見つけることも大事だという話もした。
- 委員 全く違う発想の話が聞ける場としてよかったのではないかな。
- 議長 ここまでの話も踏まえ、テーマを決めていきたい。
- 委員 あきしま会議を継続しつつ、これまでの建議の内容を今一度振り返って今期のテーマを決めてはどうか。
- 委員 平成 26 年度の建議「昭島市における地域の活性化に向けた社会教育について」がその後どう活かされてきたのか、ボランティアの話も踏まえ、地域の活性化がどう進んでいるのか、どんなことがされたのかを振り返ってみてはどうか。そうすると、市民活動にもつながってくるのではないだろうか。

委員 今回の建議の終わりにもそれは触れられているので、今回の建議でもあるあきしま会議を開催しながら新たなテーマを見つけてもよいと思う。

※平成 26 年、平成 30 年の建議を次回までに読んでくる。

委員 たしか、平成 26 年の時だったと思うが、委員の方それぞれが自分の住んでいる地域についてレポートしてもらったとも思うので、地域の様子についても見ていくこともよいと思う。

(3) 研修会「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」について（資料 2）

議長 まず、日程について調整したい（候補をあげ、講師の先生に確認することとなった）。

委員 最初のアイスブレイクでは、既定のグループをさらにわけるのはなく、グループ内で時間がかからないよう一人の紹介を短くできる工夫があるとよい。

委員 全体をして 3 時間を超える会議はハードルが高くなるので、時間配分は検討する必要がある。

委員 レジュメは出してもらっているが、「ここだけを話してほしい」ということをあらかじめ伝えるなど、フリーで話せる時間を多く取ってはどうか。また、終わった後、30 分くらい少し自由な時間を取ってみてはどうか。

委員 チラシを見ながら立ち話をしている人が多かったので、最初に、会議終了後情報交換の時間を取るのも、その時にコンタクトを取りたい人とお話してください、と伝えてはどうか。

事務局 最後にまとめの時間を取るのであれば、50 分以が限度だろう。事前に「この部分について」ということは可能ではあるが、そこではないところで盛り上がるが多々ある。

委員 その活動に入るプロセスの話に関心が寄せられ、何か悩みがあるというふうには感じないケースもあった。知らなかった活動も多く、活動そのものを知る機会にはなっていたと思う。

事務局 活動の悩みを案外持っていない場合がある。悩みはない感じでも、話をしているうちに課題が見えたというケースもある。

委員 時間的に足りないとは思わない。少し物足りないくらいがよいのではないか。

議長 2 回目だったこともあり、参加者の中に経験者もいたのでスムーズだった印象がある。

委員 よく考えると、他の方の話も聞けるくらいの余裕があった。

事務局 会議後の皆さんの様子を社会教育委員の皆さんに見ていただくことも大事なことでないかと思う。

委員 最後に 3 人ずつで印象を話すというのがあったがどうだったか。

委員 全然違うグループだった人との話は理解が難しかった。

委員 時間的にも短いので、話を受け止められるまでには至らなかった。

事務局 本来は、素直な感想を出してもらいたかったただけなのだと思うが、伝え方も考えた方が良かった。

委員 もし、他のテーブルがどんな話をしたのかを共有するなら、テーブルごとに話した方

がよかった。

委 員 各テーブルのファシリテーターが動かないで、他の人は自分が聞きたかったテーブルに行ってその話を聞いてみる。

委 員 報告者を一人にし、いくつかのテーブルでどんな話があったかを共有し、自由に移動して話を聞いてみるのはどうか。

(事務局) 来月までにプログラム作りを行う

3 報 告

(1) 平成 30 年度第 2 回青少年問題協議会について (3/25)

委 員 平成 30 年度昭島市青少年善行表彰と健全育成協力者への感謝状贈呈について報告があった。平成 31 年度青少年健全育成活動基本方針と重点活動項目について、本基本方針棟が平成 29 年度から 3 年間のものであることが確認された。今年度、内容見直しが行われる予定。情報交換として、昭島市における補導の状況について話があった。東京都全体では、5,324 人の補導があったようだが、昭島市では 59 人だったそうだ。前年に比べ減少している。一番多いのが万引きによるもので、理由が集団心理やストレスではないかということだった。

議 長 特に質問等なければ、本日の会議は終了する。

次回

5 月 23 日 (木) 午後 7 時より 昭和会館 1 階